武　一　中

令和４年１月１１日
武蔵野市立第一中学校
学校だよりＲ３－１３号

URL:http://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

チャレンジ

校　長　　中嶋　建一郎

２５年ほど前、私はサッカー部の顧問をしていました。ある日の顧問会で、まとめ役の先生から話がありました。「今度、ベトナムの中学生チームが来て大会を開きます。地元のグランドを使うので１校出場してほしいと話が来ました。１チームがベトナム、１チームがクラブチーム、２チームが公立中学校での４チームのトーナメント戦です。参加希望の学校はありますか。」

突然の話に驚きましたが、私はすぐに手をあげました。私が顧問をしていたチームは、都大会に出場できるような力はありませんでしたが、いろいろな経験をさせて鍛えたいと思っていました。くじ引きで決めるのだろう、と予想していたら、なんと手を挙げたのは私だけで、その場で出場することが決まりました。大会前日には、選手も顧問も参加して、クラブチームの施設で歓迎会の立食パーティーがありました。帽子やマグカップのお土産付きでした。試合は１勝１敗で２位。試合後には国立競技場でのサッカー観戦がバスの送迎付きでありました。想像もしていなかった展開に、私も生徒たちも、とても驚き、喜びました。今、考えても夢のようなことでした。

さて、この話、私は手を挙げただけです。「手を挙げる」たったそれだけで、何かが変わっていくことがあります。

何かやってみようとは思うけれど、一歩を踏み出せない人がいます。失敗したら嫌だからとか、やりたいけれど難しそうとか、いろいろと出来ない理由がありそうです。そんな人には、チャレンジする経験をお勧めします。私が経験した手を挙げるような運任せの簡単な行動でも良いのです。これまで自分がやっていなかった身近なこと、例えば教室に落ちているゴミを拾う、先生に質問してみる、懸賞に応募する、料理を作ってみる等、何でも良いのです。上手くいくことばかりではありませんが、経験を重ねると失敗も気にならなくなります。そして何かしらの良い結果を得ることも出てきます。するとチャレンジする楽しさがだんだんとわかってきます。

もちろん運任せではなく、地道な努力により勝ち取るものもあります。そういうものにチャレンジできる人は頑張ってみてください。すぐには結果が現れず、時間がかかるかもしれません。でもその先にある成長した姿や達成感を思えば、努力も苦ではなくなるでしょう。

３年生は、受験が終わらなければ、新たなことへのチャレンジはする気にならないかもしれません。しかし、受験自体がある意味チャレンジですから、この経験を自分の力として蓄えていってください。

今年１年、皆さんが様々なことにチャレンジすることを望んでいます。